

# 専門科目

**(高次脳機能障害コース開講)**

【科目名】 高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	【担当教員】 岩田まな（客） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[内線番号]
【授業コード】 DBMH 108	[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を習得していることが前提</p> <p>《受講のルールに関わる情報》この科目では脳の器質損傷によって生じる日常な困難を理解することが求められる</p>	
<p>【講義概要】 高次脳機能および高次脳障害を幅広く理解する</p> <p>中枢神経系の発達、構造、機能に関する理解を深める</p> <p>【一般教育目標(GIO)】 中枢神経系の発生、形態並びに、ヒトの脳の特殊化を研究する。高次脳機能について幅広く概観する</p> <p>【行動目標(SBO)】 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学習する</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート 60%、口頭試問 40%</p>	
<p>【テキスト・教科書】 資料配布</p>	
<p>【指定図書・参考書】 Cognition, brain, and consciousness, Introduction to Cognitive Neuroscience; baars, B. J. and Gage, N. M Academic Press</p> <p>脳のふしぎ—神経心理学の臨床から—；山鳥重、そうろん社</p> <p>認知機能を支える皮質下の組織—神経心理学的評価からの啓示—；Koziol, L. F., Budding, D. E 青山社</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	高次脳機能とは 脳の再生、発達	高次脳機能の基本概念	中枢神経の解剖を復習しておく	120分
2	感覚・運動発達 新生児から乳児期	健常な高次脳機能の発達について学ぶ	配布された英語翻訳文章を読む	120分
3	高次脳機能障害 先天性障害	脳の形成過程の異常によって生じる高次脳機能障害	配布資料を読む	120分
4	高次脳機能障害 後天性障害①	ある程度発達した後に蒙った脳障害によって生じた高次脳機能障害。通常、神経心理学で扱われる高次脳機能障害。	「脳のふしぎ—神経心理学の臨床から—」を読んでおく	120分
5	高次脳機能障害 後天的に生じた認知機能障害②	同上	同上	120分
6	高次脳機能障害 後天的に生じた認知機能障害③	同上	同上	120分
7	高次脳機能障害 後天的に生じた行為障害	失行	同上	120分
8	高次脳機能を支える意識、注意など		同上	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
-----------

【科目名】 高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	【担当教員】 若松直樹 [研究室] E棟2階（若松）
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[内線番号] 307
【授業コード】 DBmH 109	[メールアドレス] wakamatsu@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 11:00～16:00（月曜日～木曜日）
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特記すべき事項なし。 《受講のルールに関わる情報》 特記すべき事項なし。	
<b>【講義概要】</b> アルツハイマー病を中心とした各種の認知症について、診断、治療・ケア、心理社会的介入を概観する。 <b>【一般教育目標(GIO)】</b> 臨床を中心に実践的な評価や治療・ケア、心理社会的介入を習得できるようにする。 <b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アルツハイマー病について評価・治療的介入が行える。</li> <li>●レビー小体型認知症について評価・治療的介入が行える。</li> <li>●前頭側頭葉変性症について評価・治療的介入が行える。</li> <li>●認知症予防について介入が行える。</li> </ul>	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート50%、授業内ディスカッション50%の割合で評価する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 必要に応じて資料を配布する予定。	
<b>【指定図書・参考書】</b> 小海宏之 若松直樹 編著・『高齢者こころのケアの実践 上下巻：認知症ケアのための心理アセスメント』 創元社、2012年. ¥2,100	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1-2	アルツハイマー病・レビー小体型認知症・ 前頭側頭葉変性症の診断、治療・ケア	認知症をきたす諸疾病の診断基準にお ける要点を理解する。	●講義期間中、認知症の診 断・治療・ケア・予防に関し て日々発信される知見、技術、 社会的課題とその対応、政策 について関心を向けること。 ●WEB 検索などから情報収 集・整理を集中的に行うこと を求めます。	30分
3-4	認知症の中核症状および行動障害の評価	認知症における二大症候群の評価手法 を理解する。		30分
5-6	認知症の認知機能と情動機能への 心理社会的介入	認知症に対するリハビリテーションと もいえる非薬物的介入を理解する。		30分
7-8	認知症の予防をめぐって まとめのディスカッション	認知症の発症・進行予防として考えられ る一次・二次・三次的介入を理解する。		30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

認知症をめぐる自身の関心課題・問題意識について、活発な意見交換することを期待しています。

【科目名】 発達神経心理学	【担当教員】 川崎聡大（非）
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[研究室]非常勤講師室
【授業コード】 dBh 110	[オフィスアワー]来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特記事項なし 《受講のルールに関わる情報》 特記事項なし	
<b>【講義概要】</b> ① 「発達障害」理解の基礎となる、発達神経心理、認知神経心理学の基礎を学ぶ ② 広汎性発達障害、特異的障害それぞれの定義、障害機序について知る ③ 応用行動分析学に基づいた言語およびコミュニケーション行動の指導について知る（S-S法を含む） ④ 「臨床発達障害学」の視点から、適切な対応について学び、子どもと保護者（保育者）に対する支援の方法を学ぶ。 ⑤ 障害児（特に認知障害としての広汎性発達障害）児の療育場面を観察し、観察眼を養う。	
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発達障害」の最先端を理解する</li> <li>・発達障害児を高次脳機能障害の観点からとらえ、発達障害の背景となる要素的な認知機能障害について理解を深め障害像を正しく知る。</li> </ul>	
<b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害について根拠に基づいた言語や行動面に関する支援が可能となる。</li> <li>・特異的発達障害の指導に関するアセスメントと指導方針を正しく立てることができる。</li> </ul>	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法、試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、授業・課題への取り組み（特に積極性）40%の割合で総合的に評価を行う。 1日分の講義を欠席し出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 必要時に指示する。	
<b>【指定図書・参考書】</b> 関連文献等は講義の中で提示する。 Goswami, U. 子どもの認知発達、新曜社、2003	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	小児の高次脳機能障害としての発達障害, 各「発達障害」の障害機序と背景となる脳機能障害	講義	学修した内容の復習を行う	30分
2	発達障害の症候と言語・コミュニケーション面への関係、社会的不利との因果関係	講義	学修した内容の復習を行う	30分
3	「発達障害」の対象： 広汎性発達障害から ASD へ	講義	学修した内容の復習を行う	30分
4	言語発達障害に対する指導の基礎 見本合わせ学習に基づいた言語指導 1) 生活年齢に比し遅れ 2) 音声発信困難	講義	学修した内容の復習を行う	30分
5	言語発達障害に対する指導の基礎 認知神経心理学的アプローチ	講義	学修した内容の復習を行う	30分
6	指導事例から： LD (発達性ディスレクシアを中心に)	講義	学修した内容の復習を行う	30分
7	指導事例から：MR、ASD	講義	学修した内容の復習を行う	30分
8	まとめ：近年の研究動向について	講義	学修した内容の復習を行う	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<p>「医学」と「教育」の領域毎で多少定義が異なることに注意が必要。又、PT・OT・STでは、対象となる障害の捉え方が異なることも考慮されたい。</p> <p>本を読んで学ぶというよりも、実践力がつくような授業にしたいと考えています。</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 高次脳機能障害評価学Ⅰ（コンピューター評価技法）</p>	<p>【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] E棟1階</p>
<p>【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目</p>	<p>[メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com</p>
<p>【授業コード】 <b>bm 111</b></p>	<p>[オフィスアワー] 月曜～金曜 8:30-18:00</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目はビデオ配信授業です。</li> <li>・教材の配布はOffice365で行います。</li> <li>・Excelの基本的操作についての知識が必要です。</li> </ul> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は必ず期限内に出すようにしてください。（課題提出はOneNoteで行ってください。）</li> </ul>	
<p>【講義概要】</p> <p>高次脳機能検査として、簡単な器具あるいは検査チャートを使用するなどの方法があるが、近年コンピューターを用いた方法も導入されてきている。この講座では入門者でも簡単に組み立てるコンピューターによる高次機能の検査法について紹介し、実際に簡単な高次脳障害検査プログラムを作成することでコンピューター利用の検査プログラムの原理を理解する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳障害評価をコンピューターで検査することの意義を知る。</li> <li>・コンピューター利用の高次脳障害評価の原理を理解する。</li> </ul> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳障害評価の各種検査法について説明できる。</li> <li>・簡単なコンピューター利用の高次脳障害評価を作成できる。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</li> <li>・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%とする。</li> </ul>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じ資料を配布する。</li> </ul>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大木 あつし かんたんプログラミング Excel 基礎編、技術評論社、2011年10月21日、¥2,678</li> </ul>	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	・オリエンテーション ・高次脳機能検査の流れとコンピューター使用例	・講義、演習 ・授業の進め方を説明する。 (Office365 の使用方法を含む)	・高次脳検査について調べておく。	30分
2	・線分二等分検査プログラムの作成 (VBA の基本操作、スクロールバー・コントロールの理解)	・講義、演習 ・プログラム作成の基本を学ぶ。	・Excel のマクロ機能について調べておく。 ・習った機能で自分のプログラムを作ってみる。	30分 60分
3・4	・単純反応時間測定プログラムの作成 (VBA の時間関数、API の時間関数の利用方法)	・講義・演習 ・時間を測定する技法を学ぶ。	・前回の講義を復習する。 ・課題プログラムを完成させる。	30分 60分
5・6	・抹消テスト・プログラムの作成 (視空間失認の検査プログラム、図形を任意の位置に表示する方法)	・講義・演習 ・画面に表示される図形の選択方法について学ぶ。	・前回の講義を復習する。 ・課題プログラムを完成させる。	30分 60分
7・8	・課題発表	・演習 ・今までの講義の内容を踏まえ自分でプログラムを作成します。	・前回の講義を復習する。 ・課題プログラムを完成させレポートにまとめる。	30分 120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず事前学修を実施してください。</li> <li>・実習が行われたコマはレポートを提出すること。</li> </ul>

【科目名】 高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像・脳波）	【担当教員】 氏名 伊林克彦 [研究室] E棟2階
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[内線番号] 308
【授業コード】 Bh 203	[メールアドレス] ibayashi@nur.ac.jp [オフィスアワー] 水曜日午後
【配当年】 2年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>個人情報を取り扱う場合があるので、注意すること。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>高次脳機能障害の中でも脳の画像と神経学的症状が中心となるため、学部の実習前に学んだ画像診断について教科書等で予習しておくことが求められる。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>高次脳機能（画像検査・脳波等）について実際に経験した症例の問題点を出してみる。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像から必要な所見を読み取れるように、実例を用いて画像診断を学ぶ。</li> </ul> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経心理学的症状について専門的に説明できる。</li> <li>・画像から失語症を読み取る。</li> <li>・画像から失行症を読み取る。</li> <li>・画像から失認症を読み取る。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート 60%、口頭試問 40%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>資料を配布します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>田川皓一 峰松一夫 監訳 「神経心理学の局在診断」 西村書店 9,500円</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	失語症と画像診断	失語症例の画像	古典分類を主とした失語症の分類と症状について予習する	120分
2	同上	同上	古典的分類以外の失語症について予習する	120分
3	高次脳機能障害患者の画像診断（症例報告）	画像 case report 1	単症状を中心とする患者のCT及びMRI画像を見ておく	120分
4	失行症と画像診断	失行症の画像	失行症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	120分
5	失認症と画像診断	失認症の画像	失認症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	120分
6	認知症を中心とした画像診断（症例報告）	画像 case report 2	認知症の概念や診断、評価法などについて予習する	120分
7	外科的手術による認知症の治療法	Treatable dementia (外科的)	認知症の外科的治療法について予め調べておく	120分
8	薬物による認知症の治療法	Treatable dementia (内科的)	薬物による認知症の治療について我が国で用いている薬について調べておく	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

認知症者が急増しているため、この領域における知識を十分に履修することが大切です。

<p>【科目名】 高次脳機能障害評価学Ⅲ（神経心理）</p>	<p>【担当教員】 岩田まな（客） [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 Bh 204</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>各種の検査の意義や手順を実際に学ぶので、予めそれぞれの検査を調べ、検査の目的、検査法を発表できるように準備しておく</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>各種の検査手技を調べておく</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>高次脳機能検査として、神経心理学的検査を行う根拠を明確にし、評価（assessment）の手順を構築するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>併行して各種検査法に精通することが求められる。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価することの意義を知り、適切な検査を選択できるようにする。</li> </ul> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検査法に精通する。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>特定の実技試験を行い、その試験行為や評価法を点数化する。(100%)</p>	
<p>【テキスト・教科書】 資料配布</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 医学書院、標準言語聴覚障害学 失語症学 医学書院</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	高次脳機能障害総論復習	教科書第1章のまとめ、患者DVDを診て 検査の意味を考える	教科書を読み、まとめておく	120分
2	失語症の評価	SLTA	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
3	記銘、記憶力	Benton, 三宅式、AVLT	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
4	注意機能及び思考・判断力の評価	かなひろい検査 レーブン色彩マトリシス検査	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
5	認知症の評価	MMSE HDS-R CDR	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
6	前頭葉機能の評価	FAB	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
7	注意機能の評価	TMT BIT	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分
8	行動神経学的機能の評価	検査の選択、結果のまとめ	修了後を想定し、どの機関で も行えるよう十分復習する	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

各種の検査器具に触れるので、器具の取り扱いに注意する。

【科目名】 前頭葉機能・右半球障害	【担当教員】 波多野和夫（非）、伊林克彦、道関京子
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	【研究室】 非常勤講師室 サテライト教室
【授業コード】 dBmh 112	[メールアドレス] 伊林：ibayashi@nur.ac.jp 道関：kei.doseki@gmail.com
【配当年】 1年次	【オフィスアワー】 来学時に対応 土曜日
【開講時期】 前期	【単位数】 1単位
【コマ数】 8コマ	
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
<b>【講義概要】</b> 前頭葉症状群 (1) 言語障害 (2) 遂行機能障害 (3) 記憶障害 (ワーキングメモリ) (4) 思考障害 (5) 情動障害 (6) 精神症状 (7) 発動性障害 (8) 前頭葉と痴呆 (9) 眼窩脳症候群と凸面皮質症候群 前頭葉機能検査, 前頭葉のエニグマ (謎), 前頭葉損傷の症例研究, 前頭葉損傷患者の治療, 特に ST の役割について行う。 右半球の神経心理学的症状として取り上げる, 左半側の空間無視, 聴空間認知障害, 空間イメージにおける左側の無視, 左半身の運動無視, 左半身の麻痺についての無関心及び否認, 左半身の自己帰属性の否定等を中心に, 右半球損傷と出現する様々な症状について履修する。	
<b>【一般教育目標 (GIO)】</b> ・前頭葉の構造と機能, 及びその損傷による症状についての知識を深めること。 ・前頭葉機能障害および右半球損傷でみられる様々な神経心理学的症状についての知識を深める。	
<b>【行動目標 (SBO)】</b> ・前頭葉機能障害を実際に診断する基礎を把握すること。 ・一般教育目標に合わせた形での評価法を実践する。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート課題を実施します。課題 60%, 授業課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 波多野和夫ほか：言語聴覚士のための失語症学, 医歯薬出版, 東京	
<b>【指定図書・参考書】</b> 宮森孝史 監訳：右半球損傷—認知とコミュニケーションの障害—, 共同医書出版 ¥5,000	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	前頭葉の機能と構造 前頭葉症状群	解剖学と生理学 ブローカ失語, 非流暢性失語群 (波多野)	学修した内容の復習を行う	30分
2	前頭葉症状群	超皮質性失語群 非失語性言語症状 (波多野)	学修した内容の復習を行う	30分
3	前頭葉症状群	認知, 行為, 情動障害など 遂行機能障害, 精神症状など (波多野)	学修した内容の復習を行う	30分
4	右半球研究への道程 無視	講義 (波多野)	学修した内容の復習を行う	30分
5	プロソディの障害 (継時性), 言語的障害	講義 (道関)	学修した内容の復習を行う	30分
6	プロソディの障害 (リズム), 言語的障害	講義 (道関)	学修した内容の復習を行う	30分
7	右半球障害の臨床症状	講義 (伊林)	右半球症状についての予習	30分
8	左右の前頭葉で見られる各症状と責任病巣	講義 (伊林)	波多野先生の講義を復習する	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

#### 【教員からの一言】

前頭葉は非常に不思議な神経組織であり, その機能と症状はしばしば「エニグマ」「謎」「パラドックス」などと呼ばれてきた. 本講義では徹底的に臨床的な立場から, 可能な限り症例の事実に基づいて, ビデオなどを使用した実践的な内容を中心とした.

十分解明されていない分野ですが, 右半球機能に対する興味を少しでも持っていただきたい.

【科目名】 注意・記憶・行為・遂行機能障害	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 dBmh 113	[オフィスアワー] 来学時に対応・土曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特記無し 《受講のルールに関わる情報》 特記無し	
<b>【講義概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害について自己意識（身体図式，自己受容感覚）を基軸に考えていく</li> <li>・テキストに限定せず up-date な文献も毎回追加する</li> </ul> <b>【一般教育目標(GIO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能を定義し、その障害の基盤となる自己意識（身体図式，自己受容感覚）と障害全体を理解する</li> </ul> <b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害をその定義とともに全体を説明できる</li> <li>・高次脳機能の基軸である自己意識と、その用語の「固有感覚，身体図式，身体イメージ，自己受容感覚他」について説明できる</li> <li>・自己意識（身体図式，自己受容感覚）の病理について説明できる</li> </ul>	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 研究レポートを課する。、授業への取り組み 50%、レポート内容 50%の割合で評価する。 講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は予備日に補講する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大東祥孝：身体図式. 講座 精神の科学(4),209-236, 岩波書店, 1983. 資料としてコピー可</li> <li>・適宜追加資料を配布する</li> </ul>	
<b>【指定図書・参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目黒謙一：痴呆の臨床. 神経心理学コレクション, 医学書院, 2005.</li> <li>・坂井克之：心の脳科学. 中公新書, 2008.</li> <li>・Gallagher S: How the Body Shapes the Mind. Clarendon Press, 2005.</li> <li>・市川 浩：精神としての身体. 勁草書房, 1992.</li> </ul>	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	高次脳機能の定義と外観	講義説明とともに discussion	教科書を抄読	90分
2	高次脳機能と低次機能の違い	正確な知識と説明を解説	教科書を抄読	90分
3	高次脳機能の基盤である知覚の理論としての自己感覚・身体図式、身体イメージ、身体スキーマを考える。	課題文献を中心に講義	注意・記憶・行為・遂行機能 障害に関して調査	60分
4	身体図式の病理－身体失認	課題文献を中心に講義	注意・記憶・行為・遂行機能 障害に関して調査	60分
5	身体図式の病理－幻影肢など心理的身体と身体知	課題文献を中心に講義	注意・記憶・行為・遂行機能 障害に関して調べ各自の担当 テーマを決定	90分
6	身体図式の病理－病態失認	参考文献を中心に講義	各自、担当テーマの文献検索	90分
7	身体図式の発達と拡張	自閉スペクトラム症における身体図式の役割研究を講義	各自、担当テーマの研究現状 をまとめ、発表の handout を 作成	90分
8	注意・記憶・行為・遂行機能障害における身体図式の関わり	各自のテーマ発表から、そのテーマ障害に身体図式がどう関わるか講義	発表後のまとめ	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】高次脳機能障害とされる各症状を、それぞれを支える意識（随意性）と知覚の中心要素である自己受容感覚から再考察する。さらに高次脳機能の発達（高次化）または高次脳機能障害の改善に関して自己受容感覚の階層性を「固有感覚、身体図式、身体イメージなど」を包含してとらえられ、それに合わせたリハビリテーション、発達支援を考えられるようになってほしい。

<p>【科目名】 視覚機能障害</p>	<p>【担当教員】 氏名 武田克彦（非） 伊林克彦 [研究室]非常勤講師室（武田） E棟2階（伊林）</p>
<p>【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号] 内線308（伊林）</p>
<p>【授業コード】 dBh 114</p>	<p>[メールアドレス] 伊林：ibayashi@nur.ac.jp 武田：k-takeda@umin.ac.jp [オフィスアワー] 武田：来学時に対応 伊林：水曜日午後</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>用語などがわかりにくいので、適宜参考書をあたることを勧める。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>視覚に関する神経解剖学的な知識が必要とされるため、学部で学んだ当該領域の復習を十分にしておいてください。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>高次の視覚機能の障害として、色覚、形、顔、文字などの情報処理の仕組み及びその障害について学ぶ。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次の視覚機能にはどのようなものがあり、それらのメカニズムが障害されたときの症状などについて説明できるようにする。</li> </ul> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次の視覚機能の障害の個々の症状について述べるができる。また個々の症状を生じる脳の病巣について解読できる。また個々の症状の発現メカニズムを説明できるようにする。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>授業・課題への取り組み等の割合で総合的に評価を行う。</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、課題を課すこともある。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>資料を配布します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>武田克彦：「ベッドサイドの神経心理学」改訂2版 中外医学社</p> <p>武田克彦、村井俊哉：「高次脳機能障害の考え方と画像診断」 中外医学社</p> <p>武田克彦監訳：「心的イメージとは何か」北大路書房</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	視覚の機構、序にかえて	視覚の神経解剖学的基盤について (武田)	視覚についての幅広い知識を 予め学んでおく。	120分
2	盲視 (高次の視覚障害と意識)	高次レベルの視覚障害について (武田)	より高い次元での視覚障害に ついて関連書を読んでおく。	120分
3	視覚失認	視覚に関する失認 (武田)	視覚失認の一般的知識を高め ておく。	120分
4	文字の認識の障害	視覚失認における文字の障害 (武田)	文字の認知障害がいかにして 生じるか脳の神経学的基盤 を予習する。	120分
5	心的イメージの障害	視覚失認と心的イメージの関係 (武田)	視覚と心的イメージについて 関連書による予習をする。	120分
6	右半球機能	右半球における認知障害 (伊林)	右半球全体における各種の認 知障害を書物により予習す る。	120分
7	無視	左右の頭頂葉症状と半側空間無視 (伊林)	無視に関係する左右の脳半 球特に側頭・後頭葉の接合部 における機能を予め調べる。	120分
8	注意障害	認知機能の中の注意障害について (伊林)	注意障害に関係する前頭葉や 頭頂葉の神経学的基盤につい て予習する。	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>特になし</p>
------------------------------

【科目名】 発達障害	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 dBh 115	[オフィスアワー] 来学時に対応・土曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特記無し 《受講のルールに関わる情報》 特記無し	
<b>【講義概要】</b> ・教科書や文献抄読を進めながら、概念の発達と内言の成立について学び、発達障害臨床面からの課題について議論していきたい <b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・人間の概念と言語の発達における複雑な階層性について考察でき、最新研究を理解する <b>【行動目標(SB0)】</b> ・概念発達における心理学・神経心理学の展開と課題を概説できる ・思考と言語の発達と関係を、系統発生・個体発生および脳神経学から説明できる ・内言の成立と構造や機能について説明できる	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 課題レポートを課する。授業への取り組み（討議力など）50%、課題レポート50%の割合で評価する。 講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は予備日に補講する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> ・ヴィゴツキーLS：思考と言語新訳版．柴田義松著，新読書社，2001．	
<b>【指定図書・参考書】</b> ・Vygotsky LS:Thought and Language(Rev. ed.).MIT press,2012. ・ヴィゴツキー心理学辞典．柴田義松他編,新読書社,2007. ・Vygotsky' s Educaional Theory in Cultural Context. Alex Kozulin et al.(Eds), Cambridg University Press,2003.	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	Vygotskys 心理学および心理学派	教科書「序・1章」を中心に講義	教科書序と1章の復習  Vygotsky 心理学の特徴の研究  問題点の抽出	60分
2	研究問題捉え方と方法論	機能システムを Black box 化せず探究する人間科学としての心理学とは何かについて	一般心理学との比較  第2章抄読	90分
3	ピアジェの代表される環境(学習)的心理学の問題	発達心理学研究上で陥りやすい危険1	第3章抄読	60分
4	シュテルンに代表される内在(生得力)的心理学の問題	発達心理学研究上で陥りやすい危険2	第4章前半抄読と発達障害における解釈	60分
5	思考と言語の発生的根源と脳組織化	思考と言語の起源と発達/ 社会的なものがいかに内言・思考の道具となるか	第4章後半抄読と発達障害における解釈	90分
6	意味(概念と言語)発達	思考と言語の共通因子である意味の発達集合から複合へ	複合段階児、意味失語のリハビリについて考察	90分
7	意味(概念と言語)発達	思考と言語の共通因子である意味の発達擬概念から真の概念へ	擬概念段階児、失名辞失語のリハビリについて考察	90分
8	内言の成立と構造的特質	内言の構造・機能・形態	発達遅滞児、超皮質性運動失語におけるリハビリについて考察	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】 思考と言語に共通する因子を研究するという手段で複雑な発達過程を学ぶ。この構造的観点が分かると成人の言語障害の本質的な問題点も見えてくる。意味・概念の発達は失名辞失語における意味マトリクスへの接近の段階が解釈でき、内言の成立過程や機能はその障害の超皮質性運動失語（力動失語）の症状解釈につなげられる。単なる発達論ではなく、広く人間の高次機能の代表として思考と言語との関係を捉えていくつもりである。

【科目名】 失語・失読・失書	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 dBmh 116	[オフィスアワー] 来学時に対応・土曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特記無し 《受講のルールに関わる情報》 特記無し	
<b>【講義概要】</b> ・高次脳機能障害の代表として失語症のリハビリテーションを科学的に考えていく。 <b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・失語、失読、失書の構造について学び、その科学的把握がリハビリテーションの土台となることを理解する。 <b>【行動目標(SBO)】</b> ・失語、失読、失書領域における症候群と純粋例について説明できる。 ・失語症各タイプの構造的問題について説明できる。 ・失語症のリハビリテーションの基礎を説明できる。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・症例検討を課する。授業への取り組み 50%、症例検討レポート 50%の割合で評価する。 ・講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は予備日に補講する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> ・適宜資料配布の予定	
<b>【指定図書・参考書】</b> ・Luria AR：「神経心理学の基礎・脳のはたらき」 保崎秀夫監修，鹿島晴雄訳.医学書院，2003 ・道関京子編著：新版 失語症のリハビリテーション 全体構造法，基礎編，応用編．医歯薬出版，2016.	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	失語症研究の課題と問題点	失語症の定義についての再検討し、現在の失語症研究について	復習と症例検討	60分
2	失語症のタイプ分類の意味と目的	流暢・非流暢分類、古典分類ほかの失語症用語の定義	復習と症例検討	60分
3	失語症のリハビリテーションにおける知覚の役割	意識(随意)活動としての言語の改善について	復習と症例検討	60分
4	構造的問題へのリハビリテーション1 —自己意識が果たす役割	自主的な知覚の構造化における自己身体図式の役割とその活用	復習と症例検討	60分
5	構造的問題へのリハビリテーション2 —情緒とリズムが果たす役割	自主的な知覚の構造化における言語学外要素の役割とその活用	復習と症例検討	60分
6	構造的問題へのリハビリテーション3 —随意的な知覚の問題	自主的な知覚の構造化における不連続な刺激の役割とその活用	復習と症例検討	60分
7	非流暢タイプの失語症リハビリテーション	Broca 失語・超皮質性運動失語のリハビリテーションの課題	復習と症例検討	60分
8	非流暢タイプの失語症リハビリテーション	Wernicke 失語、伝導失語、超皮質性感覚失語のリハビリテーション課題	復習と症例検討	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】・高次脳機能の代表である失語症を土台に構造的アプローチの考え方を展開する。講義ごとに症例検討し高次脳機能へのリハビリテーションの可能性をともに考えたい。

<p>【科目名】 認知科学・認知機能障害</p>	<p>【担当教員】 伊林克彦 [研究室] E棟2階(伊林)</p>
<p>【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]308(伊林)</p>
<p>【授業コード】 dBmh 205</p>	<p>[メールアドレス]ibayashi@nur.ac.jp (伊林) [オフィスアワー]火曜日～金曜日 13:30～16:00</p>
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>学部で履修した神経学や神経解剖学を予習しておくことが望ましい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>その日学んだ事柄について頭の中で整理できるまで十分復習する。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>記憶障害や行為・遂行機能障害、失語症等を含む高次脳機能障害に罹患し、日常生活及び社会生活に支障をきたす認知症について包括的に学ぶ。また、認知症の病態を検索するためのWAIS-R, Wisconsin Card Sorting Test, 及びCDR等種々の神経心理学検査法を履修する。認知症患者の行動を分析し、脳血管性認知症と変性疾患による認知症との鑑別についても学ぶ。さらに各種の検査法を用いて認知症の症状を抽出し、それらの症状についての対応を学ぶ。そのうえで認知症の症状を段階的にとらえ、家庭内や地域におけるリハビリテーションの可能性について各ステージ毎に模索する。加えて認知症患者の治療法についても種々の文献検索等を通して実践的に学ぶ。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症患者の病態について、疾患別・原因別に分けてそれぞれの障害像を把握する。</li> </ul> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症患者に役立つトレーニング機器の研究及び開発を心がける。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験80%、授業・課題への取り組み20%の割合で総合的に評価を行う。</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリント配布、パワーポイントによる講義</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>「痴呆の臨床」目黒謙一著 2004年(医学書院)2800円</p>	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	認知症とは. 記憶障害	認知症の定義と評価法	WAIS・MMSE などの知能および 認知検査の復習	60分
2	血管性認知症と変性疾患に よる認知症. 見当識障害と視空間機能の 障害	血管性認知症および変性疾患で生ずる認知症の成 立機序を学ぶ	脳血管障害や変性疾患の種類と特 質を知る。	60分
3	行為障害 認知症の評価 (実践Ⅰ)	行為障害の病態を知る。 各種認知機能の検査法を実践する。	認知症の診断に必要な各種検査法 の復習	60分
4	認知症の評価 (実践Ⅱ) ディスカッション	各種認知機能の検査法を実践する。 3までに学んだ事柄につき検討する。	認知症の診断に必要な各種検査法 の復習	60分
5	認知症の評価 (実践Ⅲ)	各種認知機能の検査法を実践する。	認知症の診断に必要な各種検査法 の復習	60分
6	認知症の治療・訓練 (Ⅰ)	認知症の治療・訓練を実践する。	認知症の治療・訓練の復習	60分
7	認知症の治療・訓練 (Ⅱ)	認知症の治療・訓練を実践する。	認知症の治療・訓練の復習	60分
8	まとめ			

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

修了後の臨床場面で実践的な応用ができる知識を身につけてほしい。

<p>【科目名】 高次脳機能障害ケーススタディ・研究方法論</p>	<p>【担当教員】 岩田まな（客） [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 B 206</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 2単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 15コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>学部で学んだ解剖学神経学、および高次脳機能障害の教科書を予め復習しておく。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>この授業では臨床神経学分野、特にその中の高次脳機能障害領域に関する知識が必要である。</p>	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害が認められる症例について観察眼を養い、検査結果を解釈する力を養成する。</li> </ul> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書による高次脳機能障害やVTRによる症例ごとの症状を分析し、神経心理学的な診断名を明らかにする。</li> </ul> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察した事柄をプレゼンテーションすることによって一人一人の問題点を明らかにし、よりの確な治療法を考察できるようにする。</li> </ul>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>記述式試験 60% 授業・課題への取り組み 40%</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布する。</li> </ul>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>高次脳機能障害学 第2版 石合純夫著、医歯薬出版</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション	この講座の目的や内容について説明する。	特になし	0分
2 3 4 5 6 7	ケーススタディ (成人)	6回にわたって神経学的および神経心理学的疾患の患者を提示し患者が抱える問題点や症状の予後などについて討論する。	出された課題に対し、自分で調べ診断名等を明らかにする。	120分を目標とする
8、 9、 10 11 12 13 14	ケーススタディ (小児)	7回にわたって、小児患者を提示し、患者が抱える問題点や症状について討論する	検討ケースの評価と指導に関連する知識を調べ学ぶ。	120分
15	まとめ	まとめ		

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>臨床神経学についての知識が求められます。</p>
--

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 高次脳機能障害ケーススタディ・研究方法論	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 高次脳機能障害コース開講科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 B 206(T)	[オフィスアワー] 土曜日
【配当年】 2年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 自己ケースの提案レポートをまとめておくこと。 《受講のルールに関わる情報》 学んだ研究成果を公的に発表する準備も同時に進めるため、ケースおよび関連施設の個人情報保護規則に従った対処をしておくこと。	
<b>【講義概要】</b> ・高次脳機能障害および発達障害が認められる症例について、より深く観察・検索して正確な問題点を検出する。そして今後の関わり向上につなげる対処や手段について講義する。 <b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・科学的根拠をもって、障害ある人の向上に貢献できるスキルを精錬する。 <b>【行動目標(SBO)】</b> ・ケーススタディをとおり、的確な評価と訓練ができること。さらにそれらを説明・伝達できること。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・講義を通して学んだことを実践した実践経過報告レポート提出 50%、発表抄録 50%とする。 ・講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は予備日に補講する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> ・適時関連資料を配布する。	
<b>【指定図書・参考書】</b> ・Barlow DH, Nock M, Hersen M : Single Case Experimental Designs, Strategies for Studying Behavior Change. Allyn & Bacon, 3 <sup>rd</sup> edition, 2008.(第2版邦訳「1事例の実験デザインケーススタディの基本と応用, 新装版」高木俊一郎他訳, 二瓶社, 1997.) ・Simon Baron-Cohen :Autism and Asperger Syndrome-The Fact. Oxford University Press, 2008. (邦訳「自閉症スペクトラム入門」水野他訳, 中央法規, 2011.) ・道関京子 : 新版 失語症のリハビリテーション 全体構造法, 応用編. 米本恭三監修, 医歯薬出版, 2016.	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	科学的ケーススタディとは	単一事例研究の基本について説明する。	事例研究参考書を読んでおく。	180分
2 3 4	ケーススタディ ケース提出	受講学生の関わっているケースを一人ひとり評価し訓練を議論し指導する。診断や画像についても学ぶ。	症例のレポートを作成する Discussion で得た臨床の準備を行う。	120分
5 6 7	ケーススタディ 中間報告	各自の提出症例ごとに、講義から得られた知識を生かし臨床実践を向上させた中間報告をして、判断修正や問題点を議論し指導する。	提出ケースについて学んだ臨床上の問題点をまとめておく。 再度の Discussion で得た臨床の準備を行う。	120分
8 9 10 11 12	ケーススタディ 他症例	学生以外のケースを検討する。毎回成人高次脳機能障害と小児発達障害の2例について、検査、画像、生育歴などエピソードと検査、自由会話、遊び場面のDVDを観察し、問題点を抽出した科学的評価とリハビリテーション計画についてまとめる。	特になし	0分
13 14 15	ケーススタディ 結果のまとめ	各自の提出症例ごとに、臨床成果をまとめ発表する。	発表はレポートと口頭にて行う。 また、できれば職場や地域、研究会や学会にて発表する準備もする。	240分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

自分のスキルアップのみならず、的確な説明力も身につけてください。

